

NHKの衛星放送の保有チャンネル数の在り方に関する研究会

NHKの衛星放送の保有チャンネル数 の在り方に関する検討の視点（1）

平成19年11月16日（金）

検討の視点（全体イメージ）

Step1

【NHKの衛星放送の位置付け】

- ◆ NHKの衛星放送に対して、国民視聴者は何を求めているか。

【視点1】

公共放送における地上放送と衛星放送の関係

【視点2】

現在のNHKの衛星放送に対する評価

【視点3】

今後の難視聴対策の在り方

【視点4】

衛星放送の各チャンネルの目的

【視点5】

その他、新たな役割

【視点6】

HD化

Step2

【民放等との関係】

- ◆ 国民視聴者の負担は適正なものとなっているか。
- ◆ 民間放送事業者等との関係で、問題はないか。

【視点7】

国民視聴者の経済的負担

【視点8】

民間放送事業者への影響

【視点9】

コンテンツ制作分野への影響

Step3

【適切な衛星放送の保有チャンネルの在り方】

- ◆ NHKの衛星放送として、どのような目的のチャンネルが、いくつ必要なのか。

視点1 公共放送における衛星放送の位置付け

ポイント

1. 公共放送において衛星放送が果たす機能【→参考1】

(1) 地上放送でカバーしきれない番組を放送するためのメディアとしての機能

- ・ 公共放送に対して我が国より多数の地上放送チャンネルを割り当てている英国、フランス等においては、公共放送による衛星放送は、地上放送と同じ番組を放送するのが一般的。



衛星放送は、「地上放送の補完」or「地上放送に次ぐ準基幹放送」

- ・ 我が国においては、NHKの衛星放送は、難視聴対策を除いて、地上放送とは異なる独自番組で構成。

(2) 広域をカバー可能な効率的な難視聴対策メディアとしての機能

- ・ 公共放送として「あまねく受信義務」を負うNHKにとって、全国をカバー可能な衛星放送は、効率的なメディア。
- ・ 諸外国において、衛星放送に関しても、マストキャリアー原則(※)を適用している例もある。

(※) 配信・伝送サービス提供者に対し、地上放送の再送信義務を課すもの。

2. 衛星放送と他のメディアの関係

(1) インターネットを通じた番組配信の可能性

- ・ ネットワークのブロードバンド化及びその普及の進展【→参考2】により、インターネットを通じた番組配信の可能性が高まり【→参考3、4】、諸外国においてはすでに公共放送においてもサービスを開始している例がある【→参考5】。このため、従来の地上放送と衛星放送の関係だけでなく、インターネットを通じた番組配信と衛星放送の関係を検討することが必要。

(2) インターネットを通じた番組配信のメリット

- ・ インターネットによる番組配信は、既存のブロードバンドネットワークを用いれば、放送事業者としては低コストでサービスを開始できると考えられる。
- ・ 配信番組についても、割当周波数の制約なく、その量を拡大することが可能。

(3) インターネットを通じた番組配信の限界【→参考6】

- ・ ベストエフォートのインターネットでは輻輳が生じる可能性が高く、放送の品質確保に限界があるのではないか。
- ・ フルハイビジョンのコンテンツを配信するには、保証された伝送帯域として10~20Mbpsが必要。

➡ インターネットを通じた番組配信は、衛星放送の「代替」となり得るのか、あるいは、それぞれ異なる役割を担うメディアとして並立するのか。

視点2 現在のNHKの衛星放送に対する評価

2007年2月9日～12日に総務省においてアンケート調査を実施(対象:全国20歳以上の男女2,000人に対し、調査員による個別面接調査を実施。1,316人より有効回答)。【→参考7】

アンケート結果

1. 衛星放送の受信実態

- 衛星放送を視聴しない理由としては、「現在見ることができるチャンネルで十分だから」等。
- BS放送の魅力としては、「高画質・高音質の番組の放送」、「地上放送では放送しない番組の放送」等。

2. NHKの衛星放送と民間放送事業者の衛星放送の関係

- よく見るチャンネルとしては、NHKのBS1及びBS2が圧倒的多数。
- 契約者数ベースでも、同様。

3. NHKの衛星付加受信料

- 945円の衛星付加受信料について、「高い」、「やや高い」と感じている者が半数弱。

4. NHKの衛星放送の番組

- よく見る番組としては、「ニュース」、「スポーツ」、「映画」等。
- なくなると困る番組としては、「ニュース」、「スポーツ」、「天気予報」等。

5. NHKの衛星放送のチャンネル数の削減

- NHKのBS1とBS2については、視聴者層が分かれており、いずれか1チャンネルとなった場合は、「視聴を継続」、「視聴を止める」、「分からない」がほぼ同数。
- 「視聴を止める」理由は、「料金が割高になる」、「見たい番組が減る」等。

6. NHKの衛星放送のスクランブル化

- 約半数がスクランブル化を行うべきと回答。
- スクランブル化を行っても、半数以上は、料金を支払って、NHKの衛星放送視聴を継続する意向。

ポイント

➤ 地上放送のデジタル化、HD化に伴い、BS放送として、「高画質・高音質」による優位性が薄れる中で、他にどのようなメリットを打ち出せるか。

➤ 我が国の衛星放送市場におけるNHKの存在感は大きく、見直しに当たっては、衛星放送市場全体に与える影響を十分に検討することが必要ではないか。

➤ 現在の料金水準について、視聴者に対して十分な説明が行われていると言えるか。

➤ NHKの衛星放送のチャンネル数の見直しにあたって、NHKは、公共放送としてどのような番組が求められているのかを改めて検討を行うべきではないか。

➤ 視聴者は受益とコストの関係を厳しく評価しており、NHKの衛星放送のチャンネル数の見直しにあたって、どのような衛星付加受信料の見直しが求められるか。

➤ スクランブル化をした場合、半数程度はNHKの衛星放送の視聴を継続しないとなれば、質・量に関し現在と同水準の衛星放送を維持することは可能か。

視点4 衛星放送の各チャンネルの目的

1. 現在の各チャンネルの目的と現状

チャンネル	衛星第1 (BS1)	衛星第2 (BS2)	衛星ハイビジョン (BSHi)
目的 (放送普及基本計画) 【→参考8】	● 衛星系による放送の普及。	● 難視聴解消。	● デジタル技術の特性及び高画質性を生かしたデジタル方式の高精細度テレビジョン放送の普及。
現状	● NHKの衛星契約数: 約1,300万 (受信契約全体の約1/3) ● 普及数: 約1,882万(2005年度末)	● 放送時間ベースで約6割が難視聴対策番組【→参考9】。	● ハイビジョン制作番組比率 【→参考10】 【平成18年度】 総合 92%、教育 51%、BSHi 100% BS1 8%、BS2 54%

2. ポイント

➤ 衛星放送は、基幹放送と位置付けられる地上放送と異なり、補完的なものであると位置付ければ、衛星放送として求められる普及はすでに達成されたとする考え方。

➤ NHKの衛星放送は、独自番組で構成されていることも示すように、補完的なものではなく、地上放送に準じる放送(準基幹放送)であると位置付ければ、現時点では十分な普及が達成されていないとする考え方。

➤ 2011年以降も、NHKは、「あまねく受信義務」を履行するため、難視聴解消措置を講じることが必要であり、広域を効率的にカバーする衛星放送は、その役割を担うメディアとして有力な候補。

➤ 現在の「BS2による難視聴対策」と「地上放送のデジタル化に関する『新たな難視聴』」等に対する衛星を用いた「セーフティーネット」との関係性をどのように整理するかは、別途検討。

➤ 難視聴対策の在り方については、上記の検討結果とも関連。

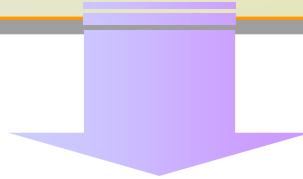
➤ 地上波・衛星を問わず、大部分がすでに番組制作まで含めてハイビジョン(ピュアハイビジョン※)へ移行しており、「ハイビジョン放送の普及」という目的は、すでに達成されていると考えられるのではないかと。

※ ハイビジョンカメラ等により制作、編集を行ったもの。

視点5 その他新たな役割

ポイント

- ▶ NHKは、公共放送として、マスメディア集中排除原則も適用除外となっており、地上放送に加えて、衛星放送を実施していることから、民間放送事業者による衛星放送とは異なる公共的な役割を担うことが求められるのではないかと。
- ▶ NHKの衛星放送につき、現状の放送普及基本計画に規定されている目的に必ずしもとらわれない、新たな目的を設定してもよいのではないかと。
- ▶ 新たな役割については、現状をベースとした短期的なものではなく、2011年以降も見越した、ある程度中長期的なスパンで検討することが必要ではないかと。



(例)

通信と放送の融合の促進

コンテンツ分野の発展への貢献

メタデータ放送の普及

新たな放送技術の開発・実験^(※)

.....等

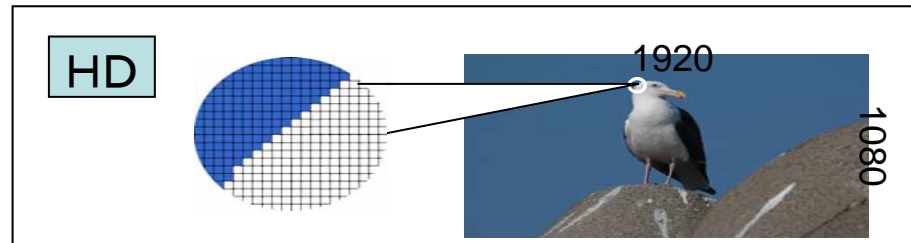
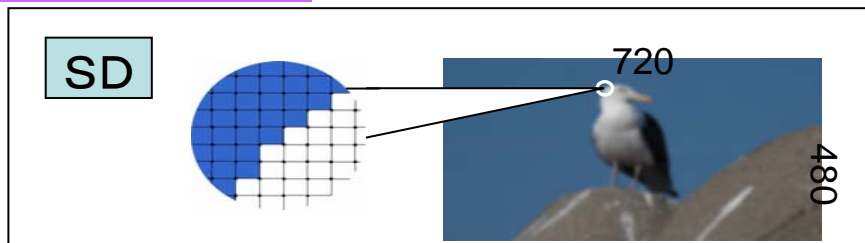
(※) 高精細度テレビジョン(ハイビジョン)放送については、試験段階においては(社)ハイビジョン放送推進協会が放送を実施。技術として一定の完成を見てから、その普及という公共的な役割を果たすため、NHKの本放送として周波数割当。

視点6 HD化

1. HD化の現状

放送波		現 状
地上テレビジョン放送	アナログ	すべてSD。
	デジタル	NHK教育テレビジョン放送のマルチ編成を除き、すべてHD。
衛星テレビジョン放送	BSアナログ	すべてSD。
	BSデジタル	NHKのBS1、BS2のみSD。それ以外はすべてHD。
	CSデジタル	110度CS2チャンネルを除き、すべてSD。

2. SDとHDの比較



3. ポイント

周波数資源

- ◆ 現在、NHKは36スロット(BS1:6、BS2:8、BShi:22)^(※)使用。
 - ◆ 現在のBShi相当のHD化を行った場合、見直し後のチャンネル数が1であれば24スロット(-12)、2であれば48スロット(+12)。
- (※)本年11月26日より、BS1:6→9、BS2:8→11、BShi:22→24にスロット数増加予定

コスト

- ◆ 制作機材等のHD化対応も進んでおり、SDによる番組制作からのコスト増はなし。
- ◆ 使用するトランスポンダのスロット数が増加することによるコスト増はあり。(現在、BSデジタル3chのトランスポンダ料は年間約8億円)

BShiをHD放送の普及のための放送としてHD化を推進してきた中で、今般の見直しにおいてHD化について、どのように考えるか。